

令和元年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐむ教育の推進		
1 一人一人の児童生徒の尊重 学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	2 友達への思いやり 子どもは、友だちとなかよくしていますか。	3 道徳・心の教育の充実 学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)
教職員の評価で「どちらかといえば、そう思わない」という回答が見られるようになったことに配慮すべきと思われる。職員同士のコミュニケーションの時間を確保し、チームとして相談しやすい環境づくりに努めることが、児童や保護者の評価にもつながるものと思われる。	児童の意識と教師の見取りの開きが見て取れる。おそらく、教師と児童での「なかよく」という捉え方の違いであると思われる。本当の「なかま」とは何かということをしるる機会を通して、指導していく必要性を感じている。	2学期の授業参観で道徳に取り組んだことで、わずかだが保護者の評価が上がったと考える。本年度作成した別業の活用が十分なされていないことで、教職員の評価が下がったと考えられる。別業の活用に学校として取り組む必要がある。

②確かな学力を育む教育の推進		
4 意欲的な学習態度 子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。	5 授業力向上 先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	6 ICT活用 先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の評価が8割を超え、全体的に見ると意欲的に学習に取り組んでいると言える。しかし、保護者・児童の評価に「そう思わない」があることから、学習への関心・興味を高める学習指導の工夫により一層努めていく必要がある。	保護者や教員がわかる授業に努めていると感じているが、10パーセントの児童はそう感じていない。児童の実態に即した授業改善と評価を今後さらに充実させていく必要がある。	今年度からタブレットが導入され、視聴覚に訴える授業が展開されている。児童自身がICT機器を活用することで、主体的に活動する姿が見られた。今後は、児童同士の対話が増えるようなICT機器の活用をしていきたい。

③健やかな体を育む教育の推進	
7 健康づくり 子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。	
「どちらかといえばそう思わない」「思わない」が保護者、児童とも2割近くいる。さんさん生活週間という長年の取り組みがあるので、継続し、少しずつでも改善していきたい。	

④いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実		⑤特別支援教育の推進	
8 児童生徒理解 先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。	9 いじめや問題への対応 学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。	10 学校の支援体制 学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	
児童の「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」が1割強の結果となった。毎学期「先生と話そうタイム」を実施しているがもっと子どもに寄り添い、児童理解に努める必要がある。	いじめがあった時は、全職員で共通理解をする場を設け、全職員で対応できるような体制を整えてきた。問題行動への対応については、敏速にきめ細やかな対応を行っていきたい。	教職員の評価に比べて保護者の評価が低いのは、保護者に対する学校の支援体制の発信が不十分であったためと考えられる。保護者に対する発信に努めていきたい。	

①子どもたちの身近な安全対策の充実

②最適な学習環境の整備

11 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

対象	はい	いいえ
保護者	85%	15%
児童	75%	25%
教職員	95%	5%

今年度は、保護者、児童、教職員全てにおいて安全教育に対する意識の向上が見られた。このことは、未然防止、迅速な対応、再発防止等を心がけ取り組んだ成果ではないかと考える。今後も保護者、学校等で連携を図りながら、安全教育の推進に努めていきたい。

12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

対象	はい	いいえ
保護者	80%	20%
児童	70%	30%
教職員	90%	10%

熊本地震等によって壊れた施設・設備の改修工事等も進み、昨年度より若干数値が上がった。しかし、校舎はまだすべてが完全復興とまではいかないもので、今後も定期点検等を行いながら、子どもたちの安心安全な環境づくりに努めていきたい。

③家庭・地域社会との連携強化

13 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。

対象	はい	いいえ
保護者	85%	15%
児童	75%	25%
教職員	95%	5%

PTAと協力してプール開放や講演会等の教育活動を行っている。また、学校ホームページを使って、毎週、各学年の様子を紹介し、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めている。

14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

対象	はい	いいえ
保護者	80%	20%
児童	70%	30%
教職員	90%	10%

昨年度より保護者の「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した割合が増加し、合わせるとほぼ9割である。今後もホームページを始とする各種通信等を駆使した学校の情報発信や気軽に相談できる体制など、連携協力ができる環境を整えていきたい。

④本校の教育

15 あいさつと返事の習慣づくり

学校は、あいさつと返事の習慣づくりに努めていると思いますか。

対象	はい	いいえ
保護者	85%	15%
児童	75%	25%
教職員	95%	5%

毎週月曜日のPTA挨拶運動や学期初めの生活目標等の取組により、挨拶・返事の習慣づくりができてきた。朝や帰りの挨拶、校内での挨拶など元気に挨拶できる児童、立ち止まって挨拶できる児童が多くなってきた。

16 楽しく学び合う授業づくり

学校は、全員が楽しく学び合う授業づくりに努めていると思いますか。

対象	はい	いいえ
保護者	80%	20%
児童	70%	30%
教職員	90%	10%

全員が楽しく学びあう授業づくりについて、児童、保護者ともに9割程度実感している。1割の児童と保護者がそう感じていないことから、さらに個々の実態に応じた授業改善が必要である。

17 体力づくりの推進

学校は、体力づくりの推進に努めていると思いますか。

対象	はい	いいえ
保護者	85%	15%
児童	75%	25%
教職員	95%	5%

子どもたちは「パワーアップタイム」などの取り組みを体力づくりに役立っていると感じているが、保護者には伝わっていないようである。保護者に対してプリント等で周知したり、家庭でも取り組めるようなストレッチを紹介したりするなど、家庭と連携した取り組みを行いたい。

来年度の具体的な取り組みについて

- 豊かな心を育むために
 - ・「道徳科」授業研究会や保護者への授業公開を通し、心の教育の充実を図る。自分を大事にするとともに他人を思いやる心を大事にした人権尊重の精神を養う。
- 確かな学力を育むために
 - ・タブレット端末をはじめとするICT機器を効果的に活用し、全ての子供たちが「分かる・できる・考える」授業を行う。
 - ・授業形態の工夫や学習方法の具体的説明、授業に集中できる環境など授業のUD化を図ることで、子どもたちの学ぶ意欲を育てる。
- 健やかな体を育むために
 - ・「さんさん生活習慣」や「パワーアップタイム」を継続し、子どもたちが自主的・意欲的に取り組むような工夫を行う。
- その他の取り組みについて
 - ・「先生と話そうタイム」等を活用し、一人一人の子どもの様子を十分把握する。教師自身が人権感覚を高めるとともに、いじめを見逃さず、互いに認め合う集団づくりを行う。
 - ・明るく気持ちのよいあいさつが飛びかう学校を目指し、教師も明るい挨拶を実践する。
 - ・子どもたちが安心・安全に生活できるような教育環境づくりを行う。

学校関係者評価

- ・ことばを大切に。人と人との心をつなぐ架け橋としての言葉を原点に思いやりの心と受け止める側の心を和ませていくコミュニケーションを多種多様なやり方で進めていってほしい。
- ・子供たちに考える力を身に付ける教育を。
- ・子供たち同士、地域の人たちとのコミュニケーションをとる簡単な方法が挨拶である。小学校時代に身に付けさせたいものだ。そこから、いろいろな体験ができるのではと思う。学校ではよく挨拶できるが、外では自分から出来ないようだ。大人の私たちも先に声をかけるようにしたい。
- ・安全な社会で生き抜くために学習をしなければならぬという精神で、上級生を見て「学び(学びはまねぶ)」につなげていったらどうか。
- ・自信を持たせる教育(長所を伸ばす教育)。
- ・勉強で理解の遅い子供に気付き、根気よく教えていただきたい。友達同士、教え合える環境があれば学びやすいのではないかと。
- ・感染症では特に手洗いの徹底を習慣づける。慌てず次の段階に進めるよう自己管理について学ばせていってほしい。
- ・身体を使った教育を。座学でなく体験が大切である。
- ・集団登校で遅れている子を見ると朝食を摂っていない子がいる。健康づくり、体力づくりに「あまりそう思わない」の回答が多いのが気になる。
- ・給食や運動は学校でできるが家での食事、睡眠など家庭で気を付けなければならないことが多い。学校ばかりに頼ってはいけないのではないかと。自転車の乗り方の徹底なども。
- ・親子学習の機会をみつめて共に学ぶことも大切ではないかと。
- ・運動会、日吉フェスティバル等を見ていると、子供たちの演技、歌声は素晴らしい出来だったと思う。先生方の指導の賜物だったと思う。